

第 4 期長野県食と農業農村振興計画

上田地域の発展方向

上田市、東御市、長和町、青木村

人・食・地域 つながり輝く上小農業

農業・農村の特徴

標高差や少雨多照の気象条件を活かし、水稻や畜産、果樹や野菜、花きなど多様な品目が生産され、近年は醸造用ぶどう栽培とともにドメーヌ型ワイナリー[※]の建設が増加しています。

水田農業は農地の利用集積による大規模化・法人化が進む一方で、自給的農家の割合や高齢化率は県平均より高く、中核的経営体だけでなく小規模農家など多様な担い手により、農業生産や農村機能が維持されています。

最近では、他産業者、移住者等と連携した棚田景観の活用による農村活性化の活動も生まれています。

※ドメーヌ型ワイナリー：自分でぶどうの栽培から醸造、熟成、瓶詰までを行う生産方式



農産物産出額【2020 年産】

(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、
「市町村別農業産出額(推計)」2020 年を基に推計)

【2020 年】(2020 農林業センサスから推計)



めざす姿

I 皆が憧れ、稼げる上田の農業

- 中核的経営体だけでなく小規模農家でも環境にやさしい農業や消費者ニーズ・消費ターゲットを意識した“こだわりのある生産・販売”により稼げる農業が営まれ、県内外の生産者や消費者が憧れる農業が実践されています。
- “キラリと光る農畜産物や農産加工品”は、新規就農者の憧れとなり、農業者等のつながりによる「地域計画」の実行で、農地や施設等の農業資産が有効活用され生産された多様な品目が安定供給されています。

Ⅱ しあわせで豊かな暮らしを実現する上田の農村

- “ほどよい田舎”や“暮らしやすさ”など地域の魅力発信により、惹きつけられた移住者が、農業・農村の新たな力として活動しています。
- 農業の営みを通して守られてきた棚田やため池、農業用水路は、長寿命化やデジタル技術の導入とともに、“美しい景観や豊かな自然環境の一部”である理解が醸成され、多様な人々が参加し、つながる保全活動により維持、活用されています。

Ⅲ 魅力あふれる上田の食

- 地元農畜産物や有機農産物等に関する消費者の理解醸成とともに、観光客等との交流、地域情報の発信など生産と消費をつなぐ拠点として農産物直売所が“新たな機能を発揮”しています。
- 農業者と地域住民、教育関係者等のつながりによる“食育”や“農育”活動、“学校給食の活用”等により、農業の魅力、伝統食や食文化についての学びが広がり、地元農畜産物の消費が拡大しています。

施策の展開方向

I 皆が憧れ、稼げる上田の農業

重点取組 1 人と地域のつながりによる担い手の確保と農地利用

多様な担い手を積極的に呼び込み、更なる新規就農者の確保とともに、「地域計画」に基づく農地利用を推進し農地の集積を進めます。特に、中核的経営体への農地の利用集積と経営の効率化を推進するほか、小規模農家や兼業農家等も地域の重要な担い手として位置付け、地域農業の維持・発展を図ります。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
新規就農者数 (49 歳以下)	7 人/年	11 人/年
中核的経営体数	529 経営体	620 経営体

【具体的な施策展開】

- 地域サポート計画の充実による新規就農者の確保・育成
- 「地域計画」に基づく地域に合った農地利用の推進
- 経営計画の実現による地域農業を担う中核的経営体の確保



【新規就農者セミナー】

重点取組 2 持続性の高い生産方式への転換と稼げる農畜産物生産

地球温暖化や気象災害に強い産地づくりを目的に、多目的防災網等の導入や適応品種・技術の普及を図ります。また、生産性や所得の向上につながる新技術や新品種の普及定着を図りながら、環境にやさしい農業の拡大を進めます。

基幹産業として期待されるワイン振興に関しては、醸造用ぶどうの質と量の向上に取り組めます。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
多目的防災網等の利用面積	59ha	100ha
醸造用ぶどうの収穫量	281t	1,200t
持続性の高い生産方式導入面積※	428ha	500ha

※環境にやさしい農産物認証、環境保全型農業直払交付金対象面積

【具体的な施策展開】

- 気候変動や気象災害に強い産地づくり
- 自然を生かした環境にやさしい農業の拡大
- 生産性や所得の向上につながる新技術・新品種等の普及定着
- ワイン文化の定着に応える醸造用ぶどうの質・量の向上
- 温室効果ガス排出量の少ない生産方式の導入支援
- 特定家畜伝染病防疫対策の強化
- 野生鳥獣被害防止対策の強化



【農業用ドローンによる防除】

重点取組3 実需者に“つながり・応える”生産と流通の拡大

需要に応じた米の適正生産や県オリジナル品種の普及拡大を図るとともに、消費者ニーズや消費ターゲットを捉えた新品目の選定や流通の検討を進めます。また、他産業とつながった農商工連携や6次産業化の取組、海外輸出の取組への支援により販売力の高い産地づくりを進めます。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
県オリジナル品種等※の普及面積	293ha	624ha
米・ぶどうの輸出量	245t	300t

※ 対象品目：水稲：「風さやか」、小麦：「しろゆたか」、そば：「信州ひすいそば®」、「タチアカネ」
りんご：「シナノリップ」、ぶどう：「ナガノパープル」、「クイーンルージュ®」、「シャインマスカット」

【具体的な施策展開】

- 消費ターゲットを明確化した生産対応と販路拡大
- 世界基準を見据えた生産振興による農畜産物輸出の拡大
- ワイン等酒類の需要拡大につなげる販売力・発信力の強化
- 農商工・産官学連携による販売力の強化と地域産業の活性化



【クイーンルージュ®】

Ⅱ しあわせで豊かな暮らしを実現する上田の農村

重点取組 4 地域資源を活かした“人と地域”がつながる交流の活性化

棚田やため池、歴史ある農業用水などの農業資産や、水稻や果樹など多様な農業体験等の魅力を積極的に発信し、都市住民との交流活動の活性化を推進します。また、地域住民と都市住民がともに行う農業資産の維持保全活動を支援するとともに、農ある暮らしの充実など農村の魅力を磨き上げ、移住促進と農村活性化につなげます。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
都市農村交流人口	6,576 人	34,000 人

【具体的な施策展開】

- 地域資源の維持保全活動を通じた地域活動の活性化支援と魅力発信
- “農ある暮らし・農業体験”の充実による都市農村交流の活性化
- 小規模農家や兼業農家（半農半X）による農村維持への貢献と役割強化



【棚田の田植え体験】

重点取組 5 農村の暮らしを守る農業基盤の強靱化

災害から暮らしを守るため、農村地域の安全安心を高める整備を進めます。特に、決壊した場合に人的被害を与える恐れのある、防災重点農業用ため池の耐震対策を進めるとともに、集中豪雨による氾濫防止のため、ゲートの自動化・遠隔化など農業水利施設の管理の省力化や安全確保を図る施設整備を進めます。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
防災重点農業用ため池の防災対策工事の着手箇所数	21 か所	29 か所

【具体的な施策展開】

- ハード・ソフト一体となった“ため池”防災減災対策の推進
- 排水対策の強化に向けた農業水利施設の自動化・遠隔化の推進



【対策済みのため池】

Ⅲ 魅力あふれる上田の食

重点取組 6 食文化の伝承と地産地消の推進

地域で生産される農産物や伝統食を次世代につなぐため、学校給食や食育、農育等の活動を強化・促進します。また、地産地消のコア施設となる農産物直売所について、農業者の所得確保や食文化の向上、雇用創出の場とともに、観光業等の他産業との連携も進め、生産と消費をつなげる機能の強化を支援します。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
学校給食の県産食材利用割合 (品目ベース)	46%	48%
常設農産物直売所の売上高	20 億円	25 億円

【具体的な施策展開】

- 地元農畜産物や食文化を活用した食育・農育の推進
- 農産物直売所の機能拡大による地産地消の推進



【食育授業の様子】